

促進学級経営記録 (その二)

(知能の遅れた児童ばかりの学級について)

足利市立山辺小学校 小沢光雄

我々の学校では、33年度から、新しく愛護学級という名前で3.4.5年の各1組の1クラスずつを作った。私はその5年1組を受持つてみて、少しばかり、感じた事や経過を述べてみたいと思います。

(1) クラス編成について

男25名、女18名で、知能偏差値は、19から、41までの児童で、精神薄弱児は、含まれていない。この編成にあたってであるが、いつも、学級内で、お客様と俗に、呼ばれている、児童達で、これらの児童を知能テスト、学力テスト、日常の状態などを吟味して、選出したわけである。家庭の連絡であるが、一応は了解してもらう。これはあくまでも原則とした。

(2) 学習について

なんといつても、学習する場合、基礎学力、即ち、算数と国語を、主としたものなのである。これは特別な、カリキニラムを作つて、その指導に、あたつたわけである。だがそれが、今日すべて、習得出来たとは、いかなる状態なのが、現状でもある。理科、社会については、他学級とほぼ同じ練習と観察を、まじえて、行う。其の他四教科に於ては普通学級並に行つて来た、時間の方は、変更ない。たゞ時間表通りに、いかなる事は随分あつた。そのほかは、学級内での討論を問題があつた度に行い、道徳などには、良い資料として来たのである。

(3) 他学級との問題

クラスの呼び名は、5の1、〇〇クラスである、8組ある中、一番最後では、劣等感は、ひとしほ強くなつてしまふ事だろうと思つた。舎は同一に5クラス他に3クラス。同一舎内では、1組が特別な立場に、おかれているという事は、良く知っているし1組の者も自分のおかれている位置を5年生ともなれば、はつきりと知つているものである。所で、運動会や、クラスマッチには困る。第一入賞の点から見ても、わかるが、ドッチボール、(女)ソフト(男)も、リーグ戦やつたら、全敗、女が少いので男が、ドッチボールへ入るわけだつたが、いやがつて入らず女は、くやしがること、やはりいふ力わざで、あつても、それ以外の、頭の方で働いて、勝つという事は出来ない。クラブに前期は、教室を使用していなかつたが、後期には、どういふ具合か、使ふ様になつた。これは5年の他のクラスの児童が入つて来るのと同様、6年生も来るわけで、教室内の環境整美を見て時には、馬鹿学級だ

よりするのでその時のショックは、児童ながら大きいものがあると思つた。書初め、給食ホス
芸術祭諸作品なども、やはり事実は仕方ないものでありながら、そこから、受ける感じは何か、
子を代表する様にしか思えないのである。

学級経営について

児童が、勉強という言葉を、どんなにくりかえされても、強く云われても、そう感ずる様な児
ない。まして、今迄普通学級で何もしない、ただ時間を、かせいでいたのであるから、自分か
ろうなんて気は一つもない。それに、少しはやつて、出来る様になりたいと思つても、周囲が、
ゆるさないのである。そして見慣れない顔、新しい友達、学習ののがの字もないのである。席は、
別7編成である、一学期はこの43名にも三段階ぐらゐの差があるので遅れている児童その
内でも、異質グループとして、二学期は、オープン、3学期はまた能力別とした。最近の一例
てみよう。朝の清掃には、なるだけ顔を出す。1時間目は、2時間目は、基礎学力と、保健衛生
4時間目は、理科、社会が大体である。午後、体育、及び図工である。所が2週間に1時間ぐ
業がある。これは、体育とか、家庭を実際の経験を通して、行ふ事で、家の廻りを清潔にする
図工での造型美を養うとか、といった具合である。だが第一の問題は、何事にもあきやすい彼
事として、面白くなければ絶対にやらない、やつても出来ない。もうほうり投げてしまう。だか
性に欠けているわけである。良く考えて見ると、やはりそれを招くだけの原因はある、まず教
例一である、高学年では、クラブ、合同体育、学年会、清掃を考え合せると個人指導として持
間は、全く少ない、週に1時間あれば良いと思ふぐらい、43名では、小さい学校の普通学級
1年を通じて来てみると、人数が多いという事がはつきりとわかる、教える方にも限界がある
わる方にも限界がある。ドリル、何回やつても個人によつてはこれ以上どうみても、進まない
のも、あるわけである。そこで考えられる事は、前にも述べたが、或る程度やろうと思つてい
か、い性格異常児や極度に、学習活動を、そこねる様な児童がゐるのでやれないわけである。そういう
今考えると、やはり入れるべきではなかつたと思う、やはり最後までこの学級の経営によく考え
れば、遅れている児童それが追いつける、追いつけさせるという事を目標にするわけである。愛
経営の自からのむずかしさがそこにある様な気がする。また室内での息入れに、あそびをとり
事である。これが、やはりなんといつてもグループの点数としたりして、なかなか、面白い活
ふれ、学習意欲の向上になにか得をえるという事。自分達の利益になる。してみると、やはり
ブの競争それへの賞をさすける。それも永久的ではだめ、やはり動的にうまくやる。そこに「
が生まれ、月日がたつにつれて、児童対先生が、人間対人間になる。だから、時には先生で、な
人間としての先生、そんな考えていく。だから近頃作業が上手で、とても他学級の生徒には
い事まで、やれる様になる。始めは、勉強もきらい、作業もきらい、何もきらいだつた。でも

それが、とても近頃変化して来た。ストーブの石炭入れや、校舎の戸じまりなんか手伝つて、石炭をよく働いたといつてもらつて来るので、おかげで余計もせている。こんな事は書けない事だが、こんな所で書かない、書けないというのは、普通学級の先生だろう。こうして来ると、学級は、さびている様でいて、2~3人のリーダーをしっかりとつかんでいるので、てんやわんやになる様には全くないのである。やつて見ての経験の尊さが、はつきりわかつてくる。

(5) 精神的な面について

345年とあるが、5年では、出来ないクラスにいるという事は、きちんと、入つてすぐから知っている。だから、ひがみや、劣等感強い、他のクラスの児童とは、家へ帰つても遊ばない。経済的側面などを考えても本当にひどいという家が多いせいか、精神に余裕がなく、いつも、こせこせして、帰つてから、父、母が共かせぎで帰つて来るまでの間をどうすごすか、という風なことである。悪い遊びや、いきおい刺激を求めていく様な傾向も見られる。それに、おそくまで、学校に残つていて、先生のそばにいたいという気持は、かなり強いものである。特にそういう児童は、いゝ面でも人指導にでもなる。また他の児童が、バカ扱いすると女子は団結して、1時間でも、2時間でも或は、長い日目をかけて、対決し、けんかをする。とてもいやなのである。外へ出てしまつて芝生で遊ぶのをうたい、氣勢をあげている様な場合や、女がそろつて給食をとらず男が、運びから、くぼり、如と、一切やるまして理解を男に持たせる、などという方法もやるのである。なにしろ他学級には、よつとみられぬ事で、そういう点では、細かい神経を使い、人々への愛情や観察を密にして、解決方法を立てていかなければだめである。子供会活動、クラブも平等に行つているが、子供会の役員には全くなりたがらない。出ていつても歯が立たないからで、クラブで親切に、そして、頭をつかわない仕事など、例えば、農園、粘土などはよるこんでいく。他は、あまりはげまない。町内子供会、及び5年でもなるだけ異つた立場をとらぬ様にする。そのほか、作業も一学期頃は、案外、ひかえ目にす。そうでないと、バカだから勉強教えないという、ひがみを起すからでもある。また、女子は第一期にも入るのでその点、誤まつて指導せぬ様に心がけた。勉強の方は、いずれにせよ、そういう方面で他の児童に負けぬくらい発達しているものである。次に、室内の遊びの事が前にも、出たが、いきまらぬ様にするという事である。また行動を共にして、なるだけ、一緒に遊んでやるという事である。そのほかやはり、学習にもなんでも必要だがなにか自信を持たせる様な方法もとるとよいと思つた。

(6) 家庭について

今迄、父母会を開いても、43名中何人来るかと思つと、2人以上来た事がない。これがまたなりの種の一つ。いくら来る様にとつた所で片親や、共かせぎ、内職、あまり悪くてこられない、全くなして、つきてしまう。呼びかける前に出ていく事それは良くわかつた。しかしそれだけの所

は、むずかしいし、現実では、本当に困難な問題なのである。それをさいてもまわるより仕
山辺では11月末から、ジフテリアや猩紅熱の流行で家庭訪問した。そういう時間を、少し
たえられた事が、1年に一回の儀礼的訪問でなく、本当に意義ある話し合いが行なわれるので
理解が生れてくるとはつきり感じたものである。

評価について

的な面であり劣等感をさそぬ事。女子での将来への件を吟味した。そこで通信票は、4.3.2
を除く。あくまでも児童の学習意欲を向上させる事を忘れずに含めた上でつけた。但し他学級
関係もあるので、その%に於ては4は10%、3は40%、2は80%、1は20%とし活動は
でもなく絶対評価とした。そこで次に問題となるのは、指導要録であるが、右の方法とは違つ
他学級と同様の学力値で行う。結論的には、二重評価である。通信票の方へもどるが、通知表の
説明書をつける。それは能力一杯やつたかどうかという事で、まだなまけているとか、或いは
がどうであつても能力一杯やつたとかという事である。ここで今迄他学級で、1、2が、この学
入つて来て、今迄2であつたものが3、1の者が、2になる場合もあるが、それは、都会と田舎の
同様でその点は仕方ない。又半永久的でなく、クラス編成替えて、それを補っている。

その他及び今後の問題点

で、他の学級ではないもの、羨やましがる様なもの、また「きく」、「はなす」の黒板学習で
実験、見る、取つて感ずる、の学習に特に重点をおきたいと考える。他の学級よりそういう点
を特別化したい。それが彼らへの誇りや、自信にもなる事であらうと思つている。最後に大切
であるが、1人2人の教師が逆立ちしたつて、この問題は、進歩するものではない。要は、学校全
かに協力一致、同一歩調でいつてくれるかという問題になる。つくる時だけのかげひきではだ
である。そこらが大きな課題にもなりそうだ。人間はひいては児童は生れながらに平等で、教
育的なものである事を忘れてはならない。また過日足利学園高等学校へ齋藤清子と朗子が来
私が鶴淵さんの父と個人的に少し、知っている関係で握手や一緒に写真を取つてもらつたり又
会場へ入る事が出来一日を楽しく、しかも、普通の人では出来ない様な事が、やれたので、その
ひ様は、たとえ様もないものである。それが何か、学習意欲向上と、そこから話が進展し、話
ついても消極的であつた児童の顔が、笑顔で満たされるのである。どんな少しの事でも、
に、じっくりとやつて行く事は、やがて大きいものを作りあげていく様な気がする。

表1~4、9は3年4年5年共通のものである。5.6.7.8は5年1組だけのものである)

愛護（促進）学級児童実態調べ

第 1 表

知 能 偏 差 値

山辺小 3 4 5 年

偏 差 値	3 年			4 年			5 年			備 考 未検査者は転入児
	男	女	計	男	女	計	男	女	計	
60 ~ 65										
55 ~ 59										
50 ~ 54	1	1	2		1	1				
45 ~ 49	1	3	4		2	2				
40 ~ 44	3	1	4	3	2	5	4	5	9	
35 ~ 39	3	2	5	7	7	14	3	4	7	
30 ~ 34	5	5	10	7	4	11	7	4	11	
25 ~ 29	3	4	7	1	4	5	7	3	10	
20 ~ 24	3	2	5	2	1	3	3	2	5	
15 ~ 19	1	3	4						1	
10 ~ 14	1		1							
0 ~ 9	1		1							
未 検 査	1	2	3							
計	23	23	46	20	21	41	25	18	43	

第 2 表

生 活 環 境

	3 年			4 年			5 年		
	男	女	計	男	女	計	男	女	計
家のくらしが普通と思われるもの	1	1	2	1	1	2	1	1	2
家のくらしが困難と思われるもの	1	2	3	1	2	3	1	2	3
家のくらしが極く負ずしい		1	1	2	7	9	4	3	7
家族扶助・教育扶助者	3	1	4	1	7	8	1		1
給食扶助者	3	1	4	1	4	5			3
家の間取りが一間のもの	6	5	11	2	2	4	2	2	4
職業（一定の職がある（農家を含む））	1	1	2	1	3	4	1	4	5
保護者職業（商店、工場経営）	3	3	6	1	2	3	2	2	4
（日雇・行商・失業）	8	7	15	6	5	11	9	11	20
片親 母がないもの	1	1	2		2	2	1		1
父がないもの	2	3	5		2	2			1
継父母			0	1		1			1

表 生 育 歴

	3 年			4 年			5 年		
	男	女	計	男	女	計	男	女	計
園保育園に行つた	1		1	1		1	2	3	5
定期弱かつた	2	1	3	3	4	7			
定期弱かつた	2		2				4	2	6

表 特 に 目 立 っ た 性 質

	3 年			4 年			5 年		
	男	女	計	男	女	計	男	女	計
員状とみとめられる					2	2		1	1
状態不安定なもの	1	1	2		1	1			
をうけずフラフラしている	3	1	4	1		1	3		3

表 33414~419までのテスト

上男 下女

2	3	4	5	6	7	8	9	計
								(人)
	2	1		1				20 25
								18 18
1	2	2		2	1	1		16 25
								18 18
	3	3						19 25
								18 18
2	2		1		1			19 25
								18 18
2	2	2		1		4		14 25
				1				17 18
3	3	4	3					12 25
	2	2		1	1			12 18
2	4	5	1	2		1		10 25
3	2	1	1		1	1		9 18
5	4	1	4	1		1		9 25
1	2	1	1	1		1		11 18

第 6 表

ひらがな五十音が何字かけたか

男		女	
22字	1人	42字	1人
23	1	46	1
37	1	47	1
38	1	49	3
40	2	50	4
45	6	51	8
47	3		
48	1		
49	3		
50	5		
51	1		
計	25人	計	18人

第 7 表

カタカナが何字かけたか

男		女	
10字	1人	31字	1人
18	2	34	1
20	1	37	1
22	1	42	1
23	1	43	1
25	1	46	1
30	2	48	5
31	1	49	1
32	3	50	5
41	1	51	1
43	1		
45	5		
47	1		
48	3		
51	1		
計	25人	計	18人

第 8 表

1 位数、2 位数の加法

15 題の正答率

男	85.4%
女	96.7%

第 9 表

同じく減法

10 題の正答率

男	60.4%
女	75.6%

通信票をこらんになる前に

この通信票は子供達がこれ以上勉強ぎらいになつたりがっかりしたりしないようにと念じながらおとどけます。

○たとえ2があろうと、1がついていようと、しかつたり、お説教したりしないで、はげましてあげてください。子どもは、持つて生れた力以上にはがんばれないものですから。

○3、4、どれも、子どもの努力によつてつけられたものですが、だいたい組の中のこのぐらゐということをも4、3、2、1の順で示したものです。

一ばん大切なことは、子供が力一ぱいがんばっているかどうか、ということです。たとえ4でも力一ぱいがんばっていないのでは、けつしてほめたことではありません。つぎの表は、力に応じてどのぐらゐ努力しているかを、表わしてあります。

A	力一ぱい実によく学習している。	
B	力相応に学習している。	
C	さらに向上の余地がある。	
D	学習に心をうちこむことができない。	

い——学校の方針として、促進学級をおくことになつたのだらうと思いますが、このような考え方は全く有難いことでありますし、この学級を進んで受持たれて日夜努力されている先生に頭がさがります。

いくら努力しても、水の泡のようにきえてその効果が見えない。努力して効果がよくわかる仕事は普通のこと、努力しても、努力しても、効果が目に見えない、この仕事に精進する姿が本当に尊いし心うたれるものがあります。

録——促進学級の経営の記録でありますから、色々の角度から記録されているので、読んで大体こんな学級だということがわかりますからその使命は達せられると思いますが

① 学校として促進学級を決定する際の職員会議で討議された内容や様子がほしいように思われました。

なぜなら、このような学校経営上重大な施設をやられる際には相当な色々な意見もあつたと思われまますから。

② それに、このようなことを学校として決定したものをP・T・Aの会議等にもはかつたと思われまますのでその経過、父兄の意見等も述べられるとよいと思ひました。

③ この学級に入ることが最もよいと思われる子供であつても、父兄の情として理論通りにいかない点をどんな手順で、どんな機会に了解していただいたか、等も私の経験からすると是非かいていただきたいところだと思ひました。

報告——この記録を読ませていただいて促進学級の様子がよくわかります。

しかも各方面から子供たちの特質をつかもうと努力されている点敬服のほかありません。今後更に研究を進める時には

困つている点がいくつか上つていますが、こんな点は、こんな風に工夫してみたら、こんな結果になつた、というような記録にすゝめられると大変深味のあるものにもなるし読む人に大いに参考になると思ひます。

この記録が現状報告という比較的外面的な書き方をしていられるため、熱心な先生のことですから内面的な内容は沢山おもちのことと信じます。

これらのものを書いていただければよかつたとも思ひました。

○子供自身 — このような学級に、入った子供自体は、父兄さえ心から了解が出来て協力して
の心配 だけますならば、あまり心配ないものです。

こつは父兄の心からの了解にあります。

○この後の — ① 学級の人数が一寸多過ぎます。
ために

折角、このようなよいことをやられるのですから、思い切つて人数を少なくして
他の学級の受持に少々余計もつてもらふことがよいのではないかと思います。
れもなかなかむづかしい問題をもつていますが)

② こう出来れば更に先生の目が個々の子供に行き届いてゆけるとは思います。現在
の促進学級の人数では一寸無理のように思われます。

③ この学級に入れる子供を決定するのに使用された、知能検査の種類方法、標準
力検査の種類方法等、も記録としては、はつきりとかくことが読む人の参考にな
ましよう。

また、決定されるまでにどんな資料が用意されて、しんちように決定されて来たか
ということも参考になりますし、大切なことですから。

④ 小沢先生の報告書の中にありました「通信票をごらんになる前に」というのは、
金子先生の方でもあると思いますが、全く同感でありまして、これは促進学級は
りでなく、すべての子供たちにこのような態度で指導したいものです。

教育というのは、遅れている子はなりに少しでも伸してやること、進んでいる
はなりに更に進むように努力する、こゝに教育があるので平均点の向上にのみ
育があるのではありませんから大いに教えられます。

自分の力一ぱい活動している時程人間は自由であり、朗らかであり、幸福なこと
ありません。教育で大切なことは、各人にそれぞれの力一ぱいどうしたら活動出
るかということ、その障害があつたら教師や親がとりのぞいてやること、これが
育である、といつてもよいのではないでしょうか。

⑤ 私たちを迷わすものにいくつかあります。

- ・平均点を向上させる教育
- ・優秀児の養成をねらいとする教育
- ・弱い子を何とかせねばならない教育

私たちはしつかりしているつもりで知らぬ間に誘惑され易いものです。

何れが必要でないというものはありませんが、弱い子を救い上げんと努力するよ
な学校と教師は、だまつていても優秀児はみおとしません。優秀児が現状に満足

ずどんどん伸び、弱い子が少しでも救い上げられるならば、平均点はその後に向上
しましょう。

自信をもつてこの仕事にあたられるようお願いいたします。

(千歳小学校 石川民治)